

第2章 調査結果のポイント

1. 外国人意識調査

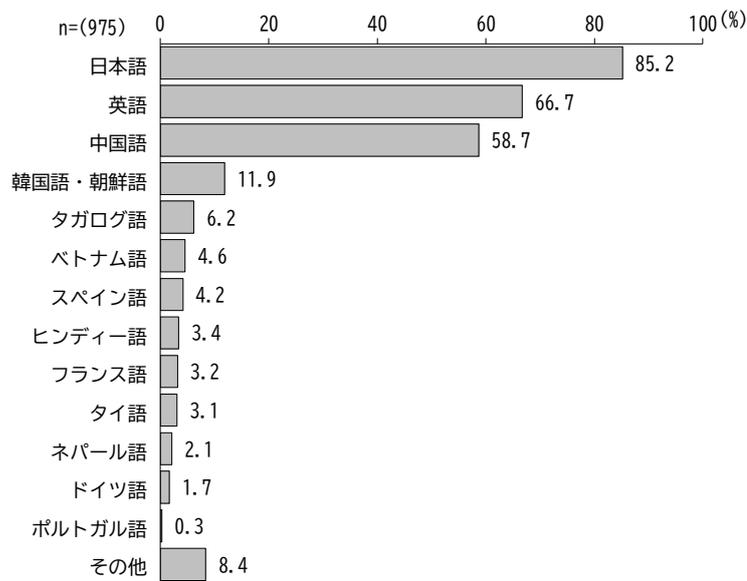
①外国人の日本語の理解度

Point

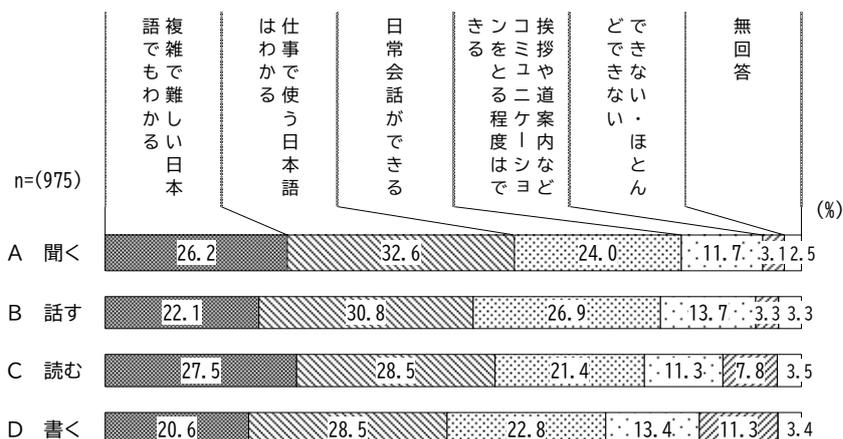
多くの外国人は日本語による日常的なコミュニケーションが可能であると考えられる。

- ・わかる言語は、「日本語」(85.2%)が最も高く、次いで、「英語」(66.7%)、「中国語」(58.7%)となっている。(問15)
- ・「A 聞く」「B 話す」「C 読む」が「日常会話ができる」レベル以上と回答した割合は80%前後、「D 書く」が「日常会話ができる」レベル以上は71.9%となっている。一方、「できない・ほとんどできない」は、「聞く」「話す」は3%台だが、「読む」は7.8%、「書く」は11.3%となっている。(問16)

図表 わかる言語 (複数回答)



図表 日本語の習得度 (単一回答)



② 区の施策

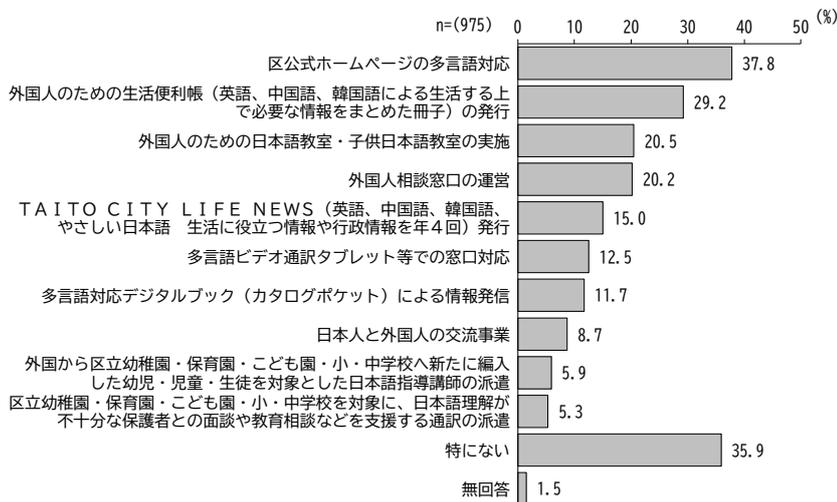
Point

外国人の中では、多文化共生に関するサービスや取組の認知度は低い。
一方で、区の施策に対する満足度^(※)はおおむね高い。

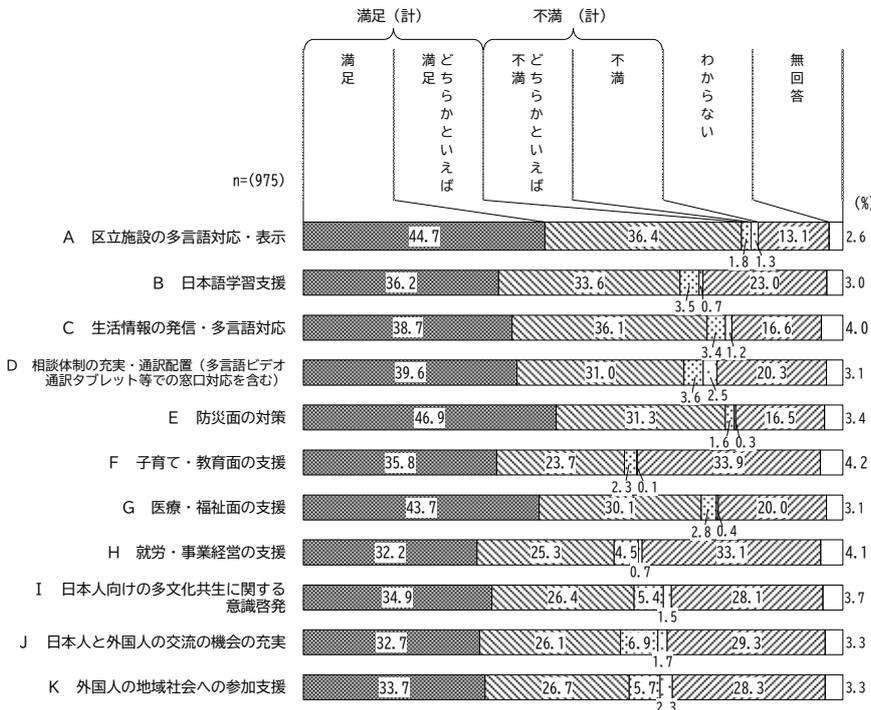
※「満足」と「どちらかといえば満足」の合計値

- ・多文化共生に関するサービスや取組の認知度は、「区公式ホームページの多言語対応」(37.8%)、
が最も高く、次いで、「外国人のための生活便利帳の発行」(29.2%)、「外国人のための日本語
教室・子供日本語教室の実施」(20.5%)となっており、全般的に低い傾向にある。(問20)
- ・台東区の施策に対する満足度は「A 区立施設の多言語対応・表示」(81.8%)が最も高く、い
ずれの施策も50%を超えている。また、全ての項目で、満足度は前回から10ポイント以上増加
している。(問21)

図表 多文化共生に関するサービスや取組の認知度（複数回答）



図表 台東区の施策に対する満足度（単一回答）



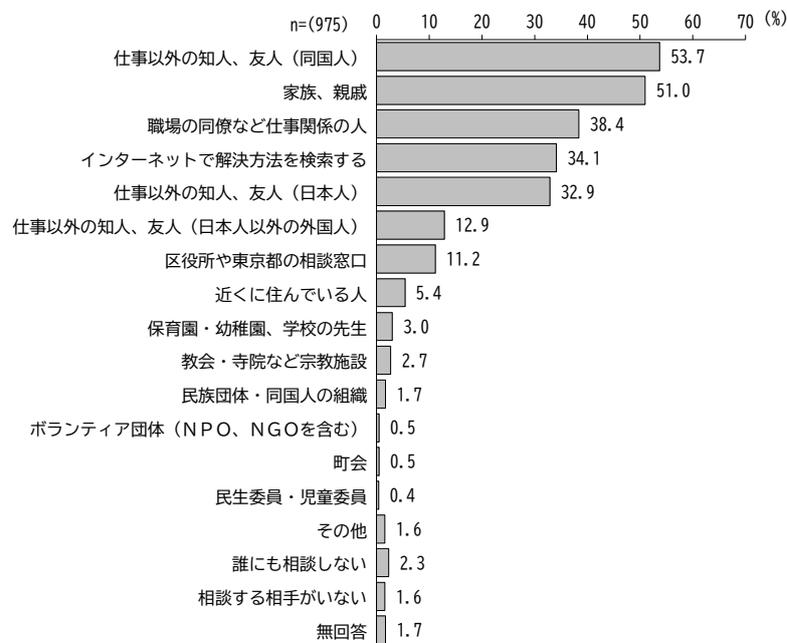
③ 外国人の相談窓口

Point

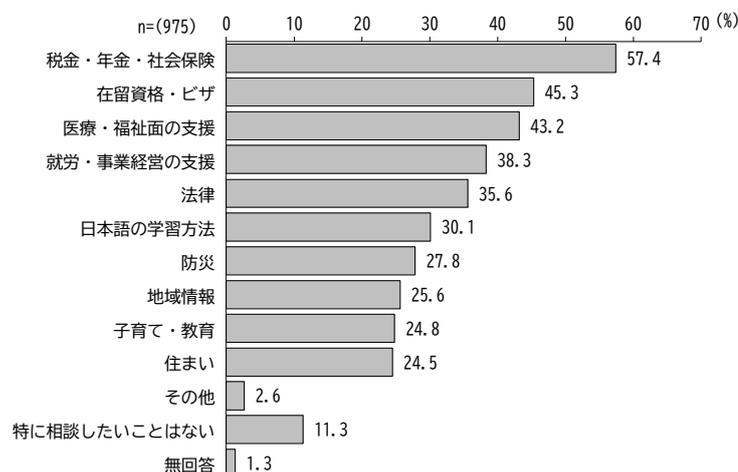
外国人が困ったときの相談先は、身近な人間関係に頼ることが多い。一方で、新たに開設する一元的な外国人相談窓口相談したいことは、多様なものがあり、一定の需要がある。

- ・生活上の困りごとが生じた際の相談先は、「仕事以外の知人、友人（同国人）」（53.7%）が最も高く、次いで「家族、親戚」（51.0%）、「職場の同僚など仕事関係の人」（38.4%）、「インターネットで解決方法を検索する」（34.1%）、「仕事以外の知人、友人（日本人）」（32.9%）となっている。（問24）
- ・一元的な外国人相談窓口相談したい内容は、「税金・年金・社会保険」（57.4%）、次いで、「在留資格・ビザ」（45.3%）、「医療・福祉面の支援」（43.2%）、「就労・事業経営の支援」（38.3%）、「法律」（35.6%）となっている。「特に相談したいことはない」は11.3%となっている。（問22）

図表 生活で困ったときの相談先（複数回答）



図表 多言語による一元的な外国人窓口開設後に相談したいこと（複数回答）



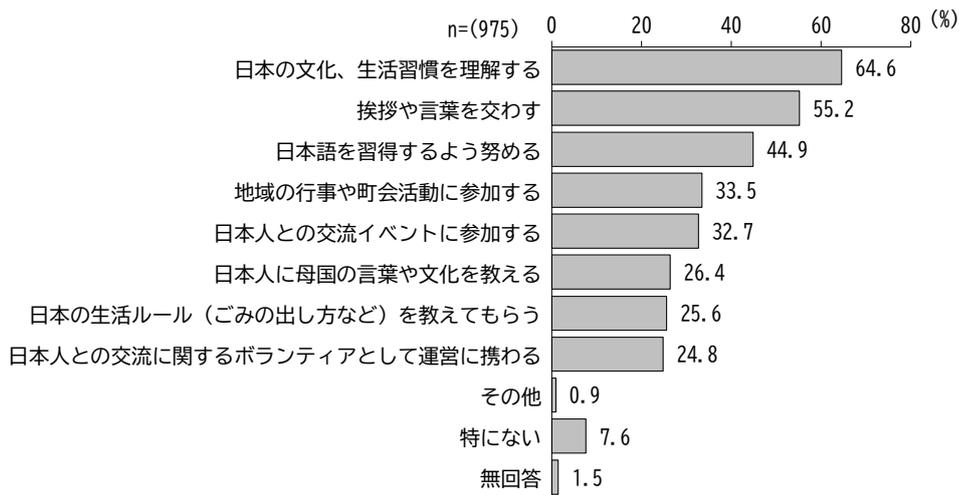
④ 相互理解の促進

Point

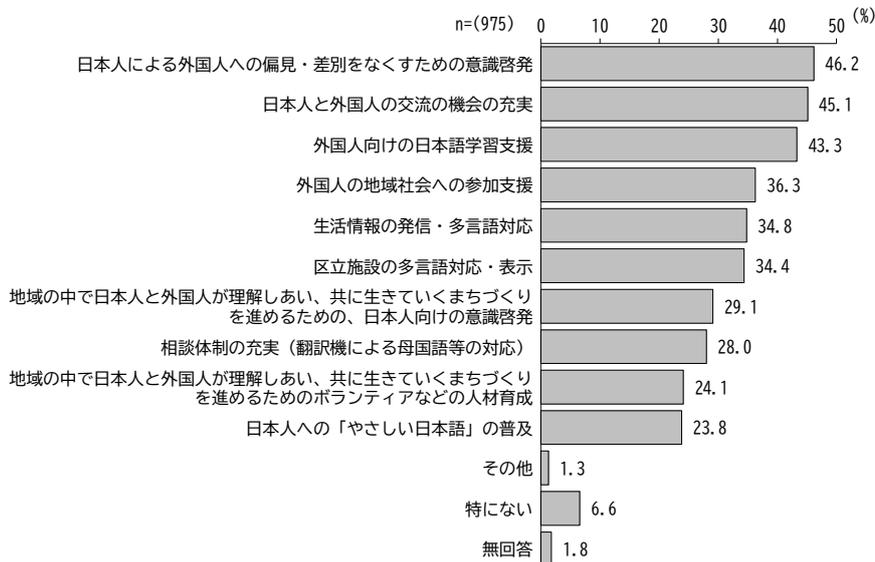
外国人が、日本人との相互理解の促進に向けて自ら行動しようとする意識は高く、その行動を支えるための環境整備や支援の充実が求められている。

- ・相互理解の促進に向け自身が行おうと思うことは、「日本の文化、生活習慣を理解する」(64.6%)が最も高く、「挨拶や言葉を交わす」(55.2%)も半数以上が挙げている。「特にない」は7.6%に留まっている。(問39)
- ・台東区が力を入れるべきだと思うことは、「日本人による外国人への偏見・差別をなくすための意識啓発」(46.2%)が最も高く、次いで、「日本人と外国人の交流の機会の充実」(45.1%)、「外国人向けの日本語学習支援」(43.3%)、「外国人の地域社会への参加支援」(36.3%)となっている。(問40)

図表 地域の中で日本人と外国人が理解し合い、共に生きていくまちづくりを進めるために、自身が行おうと思うこと（複数回答）



図表 台東区が力を入れるべきだと思うこと（複数回答）



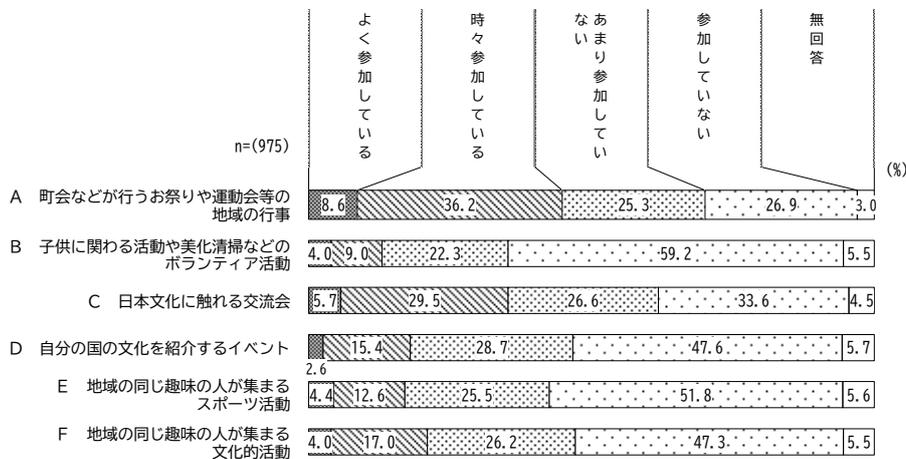
⑤ 地域活動

Point

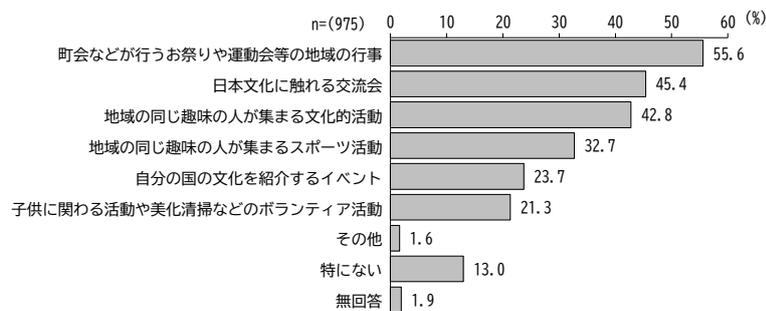
外国人の地域活動への参加は低調であるものの、担い手となり得る潜在的な層は一定程度存在しており、実際の参加に繋げるための環境整備が求められている。

- ・地域活動への参加状況を見ると、お祭り・運動会等や交流会に参加している人が多いが、いずれも50%には満たない。一方で、今後参加したい地域活動は実際の参加状況を上回っており、地域活動への関心自体は一定程度存在している。(問41、42)
- ・活動するときの困りごとは、「参加の仕方がわからない」(44.3%)が最も高く、次いで、「参加する時間がない」(43.7%)、「活動に関する情報が少ない」(40.5%)となっている。(問44)

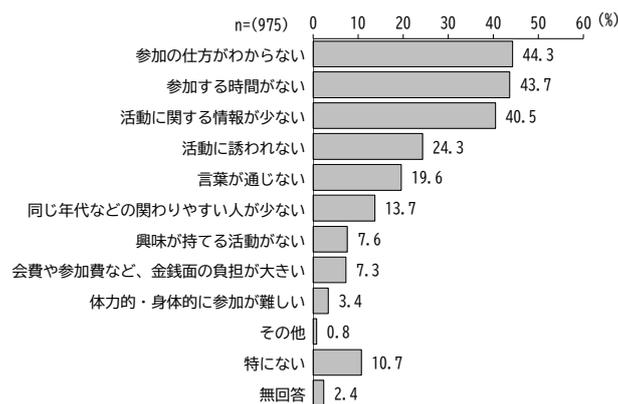
図表 地域活動の参加状況 (単一回答)



図表 今後参加したい地域の活動 (複数回答)



図表 自身が地域で活動するときの困りごと (複数回答)



2. 日本人意識調査

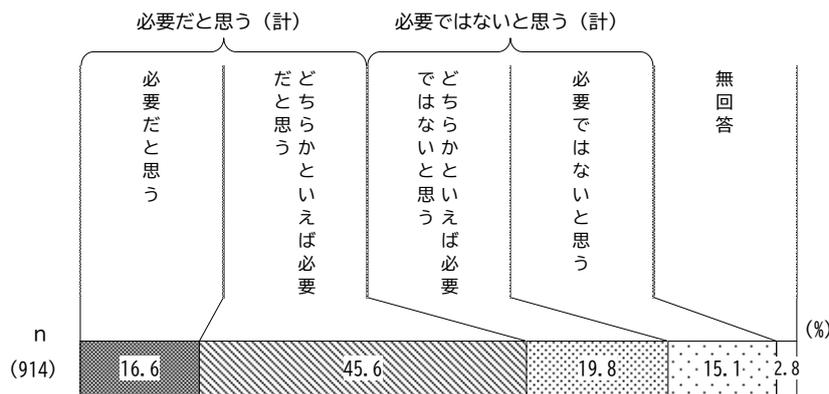
① 外国人が活躍することの必要性

Point

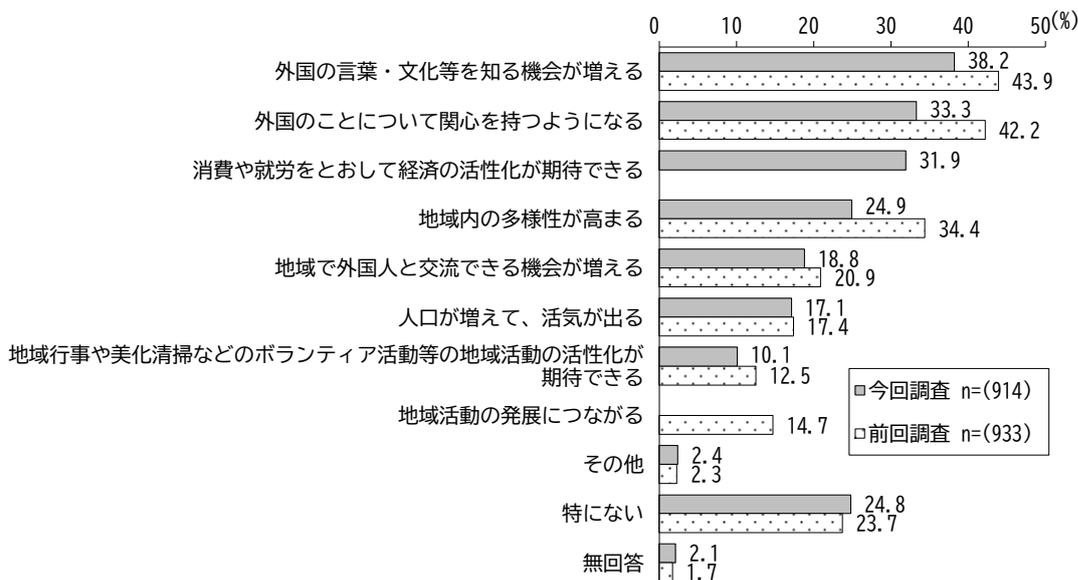
地域で外国人が活躍することの必要性は理解しているものの、受入れに対しては慎重・消極的な意識を持つ傾向がみられる。

- ・地域で外国人が活躍することは必要と考える割合は60%を超えており、外国人の存在や役割について一定の理解が広まっている。また、外国人との交流機会が多いほど、外国人の活躍が必要だと思う割合が高い。(問16)
- ・外国人が増えることにより良くなることは「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」(38.2%)が最も高く、次いで「外国のことについて関心を持つようになる」(33.3%)、「消費や就労をとおして経済の活性化が期待できる」(31.9%)となっている。前回と比較すると多くの項目で割合が低下しており、外国人の受入れに対する前向きな評価は弱まっている。(問17)

図表 今後、地域で外国人が活躍することは必要か（単一回答）



図表 【経年比較】 地域に暮らす外国人が増えることにより良くなること（複数回答）



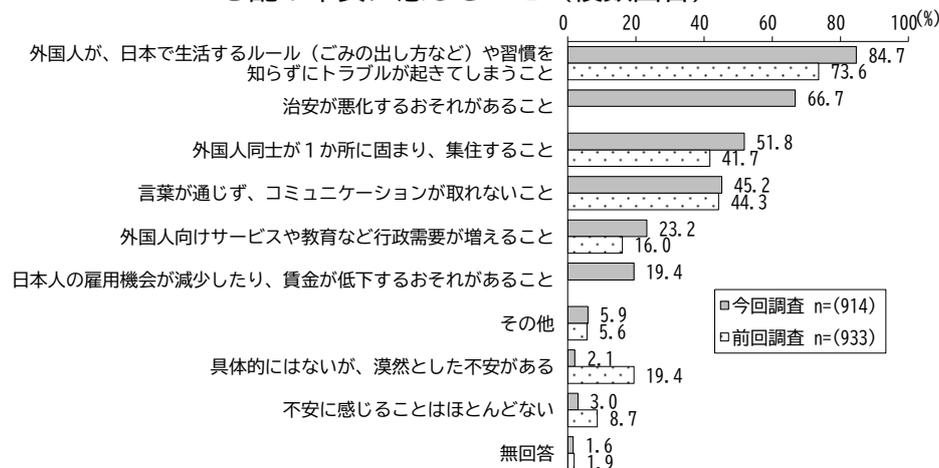
② 外国人が増えることに対する不安

Point

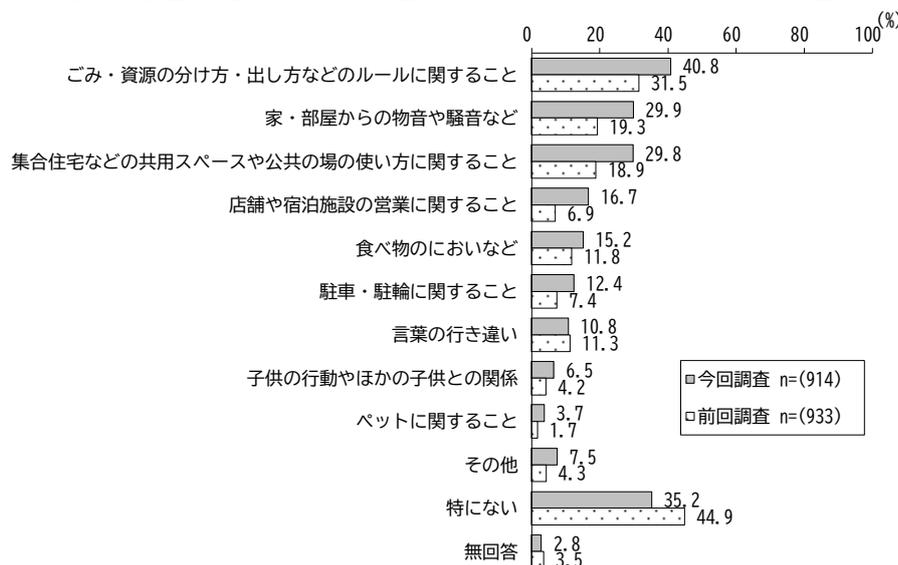
外国人が増えることで心配や不安に感じることを挙げる人は、前回より増加している。一方で、不安などを感じている人と、実際に困った経験を持つ人の割合には差がある。

- ・外国人が増えることで心配や不安に感じることは、「外国人が、日本で生活するルール（ごみの出し方など）や習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと」（84.7%）が最も高く、次いで、「治安が悪化するおそれがあること」（66.7%）、「外国人同士が1か所に固まり、集住すること」（51.8%）、となっている。上位3つのうち、今回選択肢に加えた「治安が悪化するおそれがあること」以外の2つは、いずれも前回調査から割合が10ポイント以上増加している。（問18）
- ・外国人との関係で困った経験としては、「ごみ・資源の分け方・出し方などのルールに関すること」（40.8%）が最も高く、次いで、「家・部屋からの物音や騒音など」（29.9%）、「集合住宅などの共用スペースや公共の場の使い方に関すること」（29.8%）となっている。外国人に対する不安と実際の困りごとはいずれも前回から増加しているものの、不安などを感じる人と、実際に困った経験を持つ人の割合には差がみられる。（問19）

図表 【経年比較】地域に暮らす外国人が増えることで
心配や不安に感じること（複数回答）



図表 【経年比較】地域に暮らす外国人との関係で困った経験（複数回答）



3. 外国人・日本人 共通設問の比較

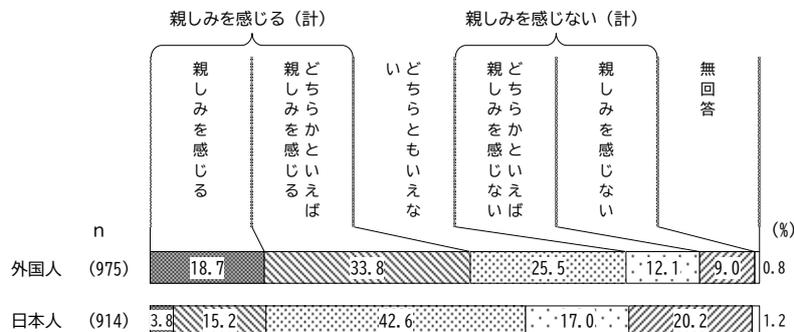
① 相互間の交流意欲

Point

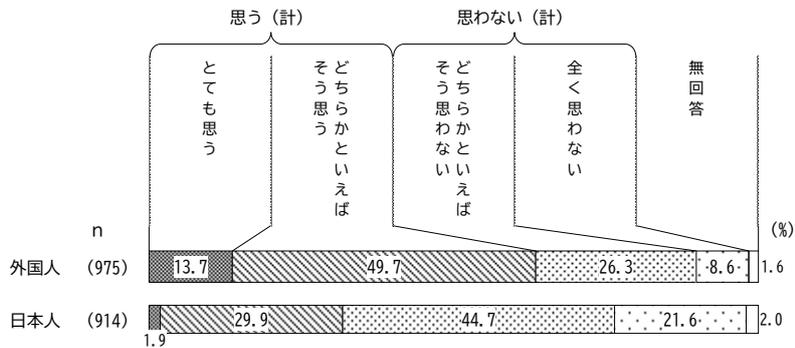
外国人は日本人との高い交流意欲を持つのに対して、日本人は外国人との交流について消極的な傾向がみられる。

- ・地域における交流に関する共通設問を比較すると、「地域の外国人と日本人の相互の親しみ度合い」（外国人：問33、日本人：問11）、「外国人と日本人のコミュニケーションがとれているか」（外国人：問34、日本人：問12）、「地域に暮らす外国人と日本人の交流意向」（外国人：問35、日本人：問13）のいずれにおいても、肯定的に回答した割合は、外国人が日本人よりも30～40ポイント以上高くなっており、両者の間に意識の差がみられる。

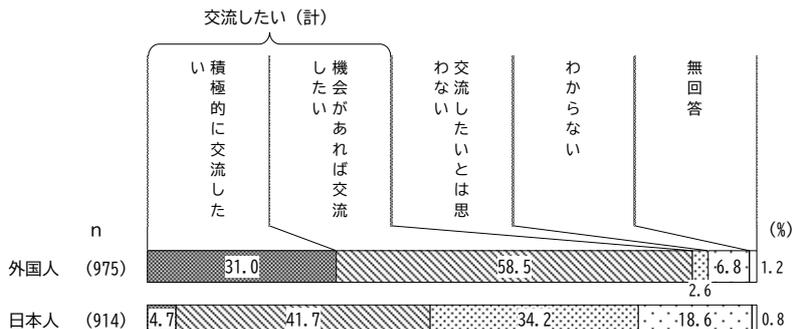
図表 地域の外国人と日本人の相互の親しみ度合（単一回答）



図表 外国人と日本人のコミュニケーションがとれているか（単一回答）



図表 地域に暮らす外国人と日本人の交流意向（単一回答）



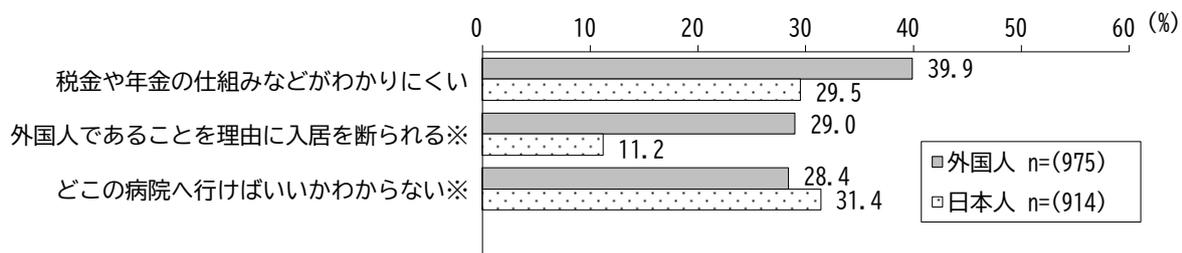
② 日常生活での困りごと

Point

外国人が抱える困りごとについて、
日本人の認識と外国人の実態との間には違いがみられる。

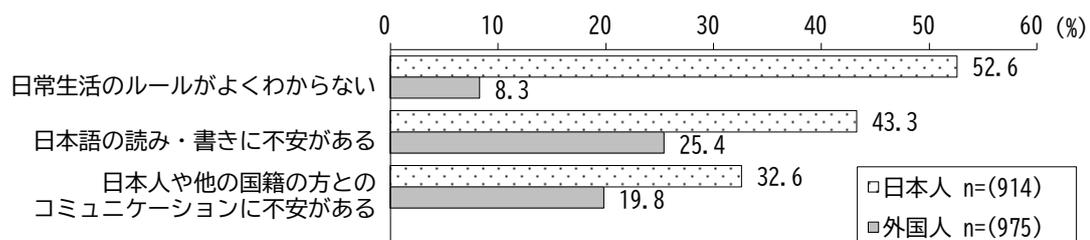
- ・外国人の困りごとは、「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(39.9%)が最も高く、次いで、「外国人であることを理由に入居を断られる」(29.0%)、「どこの病院へ行けばいいかわからない」(28.4%)となっている。(外国人：問23)
- ・日本人が想定する外国人の困りごとは、「日常生活のルールがよくわからない」(52.6%)が最も高く、次いで、「日本語の読み・書きに不安がある」(43.3%)、「日本人や他の国籍の方とのコミュニケーションに不安がある」(32.6%)となっている。(日本人：問20)
- ・日本人が想定する上位3つの困りごとは、外国人が困りごととして挙げる比率は低く、「日常生活のルールがよくわからない」は外国人では8.3%、「日本語の読み・書きに不安がある」は25.4%、「日本人や他の国籍の方とのコミュニケーションに不安がある」は19.8%となっており、日本人の認識と外国人の実態との間には違いがみられる。

図表 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと
(複数回答・外国人上位3位と日本人の回答の比較)



※外国人調査票の「外国人であることを理由に入居を断られる」は日本人調査票の「住まいのこと」、外国人調査票の「どこの病院へ行けばいいかわからない」は日本人調査票の「病院や医療のこと」と比較している。

図表 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと
(複数回答・日本人上位3位と外国人の回答の比較)



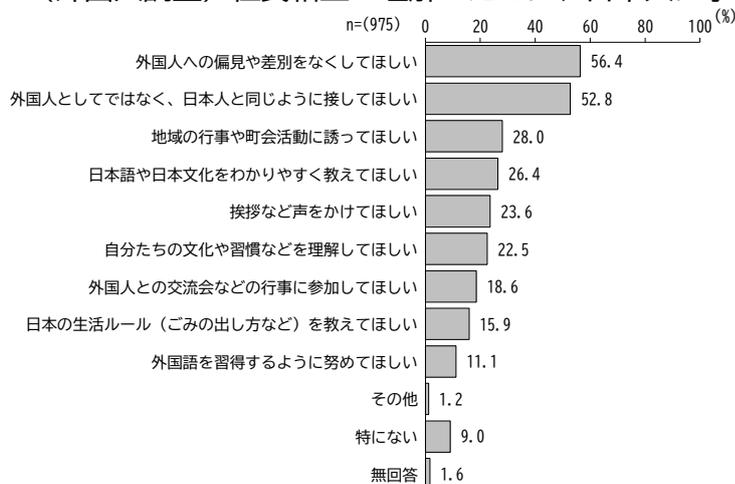
③ 住民相互の理解促進のために相手に求めること

Point

相互理解の促進のために、外国人と日本人が相手に求めることの方向性や内容には違いがあるが、目指すべき地域社会は一致していると考えられる。

- ・外国人が日本人に求めることは、「外国人への偏見や差別をなくしてほしい」(56.4%)が最も高く、「外国人としてではなく、日本人と同じように接してほしい」(52.8%)も半数以上が挙げている。次いで、「地域の行事や町会活動に誘ってほしい」(28.0%)、「日本語や日本文化をわかりやすく教えてほしい」(26.4%)となっている。(外国人：問38)
- ・日本人が外国人に求めることは、「日本の日常生活における習慣やルール(ごみの出し方など)を守ってほしい」(76.7%)が最も高い。次いで、「地域の一員としての意識をもって生活してほしい」(58.4%)、「日本の伝統・文化や風習を理解してほしい」(53.9%)、「日本語を習得し、会話ができるようにしてほしい」(34.0%)、「近所の人への挨拶や声をかけあってほしい」(30.5%)となっている。(日本人：問22)
- ・外国人は、地域に日本人と同様に受け入れてほしいという意向がある一方で、日本人は、外国人に地域の一員としての行動を求める傾向があり、両者が相手に求めることの方向性や内容には差異がある。しかし、外国人、日本人ともに、地域で円滑に生活できることを目指していると考えられる。

図表 (外国人調査) 住民相互の理解のために、日本人に求めること(複数回答)



図表 (日本人調査) 住民相互の理解のために、外国人に求めること(複数回答)

